

**第20回海洋工学シンポジウム**  
**－日本の海洋ストラテジーを考える－**  
論文募集

海洋工学シンポジウムでは、過去 19 回に渡り、海洋開発の実際に関する特別講演をはじめ、海洋工学の広い範囲に渡る最新情報をワークショップ形式で報告して参りました。今回、装いを新たに日本海洋工学会と日本船舶海洋工学会による主催として、我が国における海洋工学分野の意義を再確認し、産業や教育、レジャーといった新しい海洋文化を創造しながら、我が国が進むべき道を探ることを目的に「日本の海洋ストラテジーを考える」をコアテーマとし、下記の分野に関する論文を募集します。コアテーマに関連した特別講演・招待講演を含めて興味溢れるシンポジウムとすることを予定しています。

- |                    |                    |                |
|--------------------|--------------------|----------------|
| 1. 海洋政策・文化・教育      | 2. 地球環境・保全         | 3. 海洋汚染・回収回復技術 |
| 4. 海域富化・浄化         | 5. 海洋生物・生態系        | 6. 空間利用・海域制御   |
| 7. マリンレジャー・マリンスポーツ | 8. 洋上交通・物流         | 9. 水産資源・深層水利用  |
| 10. 海底資源・鉱物資源      | 11. 海洋エネルギー        | 12. 海洋調査・観測    |
| 13. 水中音響・海中技術      | 14. 掘削・ライザー・パイプライン | 15. 安全性・信頼性    |
| 16. 材料・構造強度・疲労強度   | 17. 海洋情報処理技術       | 18. 外力・応答・係留   |
| 19. その他            |                    |                |

ワークショップ形式ですので、学会の定期講演会のような完成された論文ばかりではなく、新しい着想、進行中の実験データ、実海域での貴重な計測結果、規則、設計法、建設技術に対する提言などまだ十分に纏まっていない論文の発表も歓迎します。また、会場内における参加者と発表者との討論によって相互啓発に資することを期待しておりますので、従来にも増して奮って論文を応募下さい。なお、応募論文は申込みの際に提出して戴いた論文概要に基づいて審査し、発表論文の決定後に本論文を提出して戴きます。

記

**開催日**：平成 20 年 3 月 18 日（火）～ 19 日（水）

**開催場所**：日本大学理工学部 駿河台キャンパス 1 号館 〒 101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14

**申込要領**：

原則、下記ホームページから直接お申し込み下さい。ホームページからの入力が必要な場合に限り、以下の内容を明記の上、下記アドレスに E-mail を送信するか、FAX にてお申し込み下さい。

- a) 論文題目
- b) 著者氏名と所属（主著者明記のこと）
- c) 連絡先住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス
- d) 400 字程度の概要
- e) 希望セッションまたは分野名（前記 19 項目から選択）

**連絡先**：横浜国立大学 環境情報研究院 村井基彦

〒 240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-7 電話& FAX：045-339-4098 E-mail：[oes2008@ocean.jks.ynu.ac.jp](mailto:oes2008@ocean.jks.ynu.ac.jp)

**申込締切**：平成 19 年 11 月 16 日（金）必着

本論文の提出その他：

- a) 概要による発表論文の決定は、平成 19 年 12 月初旬
- b) 本論文の提出期限は、平成 20 年 1 月末日必着
- c) 概要と本論文の執筆及び発表はともに日本語、英語いずれにても可。本論文の長さは、図表写真を含めて刷上がり 4～8 枚以内（2 段組）とし、PDF ファイルによる投稿を原則とします。
- d) 論文集は、シンポジウム当日 CD-ROM 化して配布予定。

**ホームページ**：

参加登録、本シンポジウムに関する一般情報、原稿執筆要領など論文・講演に関する情報については、下記ホームページをご覧ください。<http://www.ocean.jks.ynu.ac.jp/~oes2008/>

**協賛予定**：

海洋音響学会、海洋調査技術学会、環境法政策学会、海洋理工学会、計測自動制御学会、国際海洋科学技術協会、資源・素材学会、石油学会、石油技術協会、電気学会、土木学会、日本エネルギー学会、日本沿岸域学会、日本化学会、日本海水学会、日本海洋学会、日本機械学会、日本建築学会、日本航海学会、日本深海技術協会、日本水産学会、日本水産工学会、日本鉄鋼協会、日本マリエンジニアリング学会、物理探査学会、水環境学会、溶接学会（順不同）